

G-4 中学生用市販スカートの型紙寸法と実測値との関係
岩手大教育 清水 房 ○池田揚子 鈴木由美子

目的 地域の実態に即した教育課題解決をめざして、28回総会においてはブラウス型紙寸法と身体計測値との関係について報告し、今回は下衣部分のうちのスカートに係わる型紙寸法と実測値との関係を検討し、指導上改善を要する点を明らかにしたい。

方法 ①資料；市販され、県内中学校で活用している型紙6種類。昭和42年と52年に県内3地域（中都市、農村、山村）各1校を選定、各学年50名を目標にして行った身体計測値。②検討方法；比較的多く採用されている型紙出版社数社を選んで、市販型紙の寸法比較を行う。補正の必要な部位を対象に、型紙寸法区分と計測値との関係を学年別に検討。

結果 ①6社の型紙寸法区分は、4段階、5段階、6段階の三種類で、うち4社の五段階までの区分の寸法が一致している。②腰围の寸法区分は4cm間隔が多く、ついで3cmのものや、不均等間隔のものも散見される。③寸法表示で腰丈、腰围の位置が記入されていないものもあり、教育的配慮にかけるように思われる。④市販型紙寸法区分の多いもの即ち、胴围は20cm間隔、腰围は4cm間隔に区分を設定し、計測値の腰围と胴围の相関分布表を作成した結果、型紙寸法の枠内に入る割合が、52年の計測値で1年生が約30%で最も多く、3年生は約20%で最も少ない。学習指導要領の改訂によりスカート教材は制服2に位置づけられ、2年生で取り扱うことを標準とすることになるので、この点からの改善が必要となる。⑤全体的に型紙寸法区分からはみ出すのは、腰围を基準にして選んだ場合、胴围寸法（型紙の）が大きい傾向による。⑥10年間の体型変化が本県の場合も胴くびれの傾向にあり、腰围と胴围の差が30cm以上の場合に対する配慮が必要である。